



## 開催中

## 企画展

## 「名古屋大空襲—名古屋のまちに爆弾が降ってきた—」

3月2日(火)から開催中～5月22日(土)

アジア・太平洋戦争末期、日本各地は米軍の空襲をうけ、市民の頭上に「前線」と同じように爆弾が降り注ぎ、おびただしい命が奪われ傷つけられました。私たちが暮らす名古屋の街は63回もの空襲を受け、終戦の1945年8月15日には焼け野原になっていました。

名古屋市に対する本格的空襲は、1944年12月13日の三菱重工業名古屋発動機製作所大幸工場への爆撃から始まりました。軍需工場への爆撃から始まった米軍の空襲は、3月になると東京、大阪、名古屋、神戸など大都市市街地を焼き払う作戦に変更します。名古屋へは300機規模のB29が2回、5月には500機規模のB29が2回大量の焼夷弾を投下、消火不可能な大火災を発生させ、都市を丸ごと焼き払いました。

今回の展示では、名古屋市街地への空襲、航空機産業の拠点としてねられた名古屋、空襲時「逃げずに火を消せ!」とした『防空法』、周辺地域(名東区・守山区・天白区)の空襲被害や市内に残る空襲遺跡など、これまでピースあいちが取り上げてきた展示をコンパクトにまとめました。

戦争終結直後、占領軍と共に来日したロバート・モージャー氏が撮影した名古屋城跡を含め市街地の写真も展示しています。



# 予告 企画展「戦争とスポーツ—戦時下、時代に翻弄されたスポーツ選手たち—」

4月6日(火)～5月22日(土)

世界的な新型コロナウイルス感染拡大により2020年に開催されるはずだった東京オリンピックが延期となりました。2021年になった今も開催されるのか、またどのような規模での開催になるのかなどわからないままですが、このタイミングでスポーツという側面から、戦争について考えようと企画しました。

現在判明している日本の戦没オリンピック(戦争と暴力で亡くなった五輪選手)は38名にのぼります。輝かしい実績を残したオリンピック選手や、プロ野球選手、当時人気の高かった学生野球に青春を捧げた学生たちを紹介しています。彼らの人生を通して、戦争の実相に迫ります。

また、1940年に開催されるはずだった東京オリンピックは、日中戦争が拡大し国際的に孤立していくなか、日本が開催を返上し幻となりました。戦時下、スポーツ界も戦争の影響を強く受けていました。

スポーツと選手たちがどのように時代に翻弄されたかを知り、スポーツを存分に楽しむことができる平和について考えるきっかけになればと思います。



前畑秀子



松永行



近藤清



最後の早慶戦

## 「野間美喜子さんを偲ぶ会」のご案内

ピースあいち前館長の野間美喜子さんが亡くなって、早一年。故人が生涯をかけて追求めた反戦平和への願い。それを共有してきた皆さまと、故人を偲ぶひとときを過ごしたいと思います。主催はご遺族とピースあいち有志。日時場所などは下記の通りです。

日時 2021年5月9日(日) 13時より  
場所 HOTELルプラ王山2階「飛翔」  
名古屋市千種区覚王山通8-18  
地下鉄東山線藤が丘行き「池下」駅下車  
2番出口から東へ3分  
\*詳しくは「ピースあいち」(Tel 052-602-4222) までお問合せください。

そのほかにピースあいちでは、「野間美喜子記念文庫(仮称)」を設置します。(5月9日開設予定)

## 予告 プチギャラリーの企画

### ●都築英雄さん「絵で語る戦争体験と平和への思い」

開催中～5月22日(土)

都築さんは今年91歳になります。ピースあいちの語り手として、学徒勤労動員で働いていた豊川海軍工廠での戦争体験を多くの方にお話しています。16枚の体験画と10年ほど前から始めた点描画の最新作「大山」なども展示。

### ●首里城(「沖縄展」関連展示)

5月25日(火)～7月10日(土)

2019年10月31日の首里城の火災は日本人、とりわけ沖縄の人々に大きな衝撃を与えました。「沖縄展」関連展示として、首里城の歴史から現在の様子を展示します。

### ●現代の高校生たちの平和活動

(「少女たちの戦争」関連展示)

7月13日(火)～9月25日(土)

戦争体験を継承し、戦争と平和を考え続けるために、今を生きる若い人たちがさまざまな取り組みをしています。「少女たちの戦争」関連企画として、愛知県内の高校生や団体の活動を紹介します。



## 予告

### 準常設展「沖縄から平和を考える—ウチナーとヤマトの架け橋に」

5月25日(火)～7月10日(土)

ピースあいちはこれまで10回の「沖縄展」を開催してきました。2013年には企画展をもとにした『沖縄から平和を考える』というブックレットを刊行しています。その副題である「ウチナーとヤマトの架け橋に」という主旨に則って、今後は展示を準常設展化すべく、内容の見直し・点検を行いました。

その目的は、沖縄に米軍基地負担などを押しつけてきた「本土」(「ヤマト」)の人々に沖縄に関する基礎的な知識を提供し、沖縄の負担軽減につながる道を模索することです。特に「琉球併合」以後、沖縄地上戦や戦後の沖縄の人々の苦難の歩みを中心とした近現代の沖縄史の紹介に力点を置いています。限られたパネル枚数なので割愛した事柄は多く、説明不足は否めないものの、最新の情報にも当たって親しみやすい内容に作り直しました。是非一度ご覧いただければ幸いです。



朝貢船 ▶  
▼ 普天間空港



## 予告

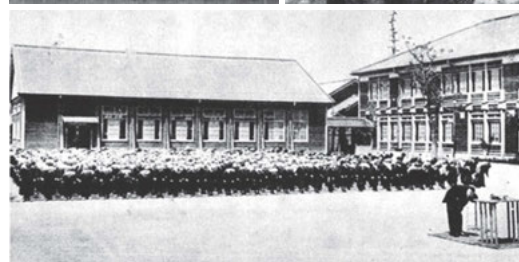
### 企画展『少女たちの戦争—青春のすべてが戦争だった』

7月13日(火)～9月25日(土)

コロナ禍のため、長い休館や活動縮小を余儀なくされた当館でしたが、企画展『少女たちの戦争—青春のすべてが戦争だった』が、一年遅れでこの夏いよいよ開催されます。

同じ年頃の「少年たち」が置かれた場所を軍国のど真ん中とするなら、「少女たち」は、そこから少し外れた場所で、また違った日本を見ていたのではないかと。当時の社会は、彼女たちに何を望み、どんな生き方を強いていたのだろうか。そこには現代の私たちが汲み取るべきことがあるのでは? そんな気持ちで企画しました。

マンガ『あとかたの街』をイメージガイドとして、教育、日常生活、勤労動員、空襲など、少女たちの青春を追体験できるような展示をめざしています。たくさんの皆さまのご来館を心待ちにしています。





**報告**

**初の試み オンライン「夏の戦争体験を語るシリーズ」**

2020年8月8日(土)～8月10日(月・祝)

コロナ禍への対応として、恒例の「夏の戦争体験を語るシリーズ」をオンラインで3日間開催しました。語り手は学徒勤労動員体験の都築基雄さん。広島市で被爆体験者の木下富枝さん。名古屋空襲体験者の津田さゑ子さん。参加者は、愛知県だけでなく東京や川崎、山梨から、また小学生から大人までの幅広い年齢層の約160名でした。名古屋地区の新聞・テレビ局の取材があり、午後9時からNHKで全国放送され話題になった取り組みとなりました。

今後、さらに広く呼び掛ければ参加者も増えると思われます。外国からの参加もあるでしょう。新しい取り組みに挑戦することによって、ピースあいちの存在がこれまで以上に広がることを期待します。



**報告**

**「第8回寄贈品展—伝えていこう戦争の記憶」**

2020年12月8日(土)～2021年2月27日(土)

寄贈者23名、展示された絵葉書、軍事郵便、紙幣、画集の個別展示等を数えると総数約650点。会期は当初の2か月から1か月延長されましたが、コロナによる休館のため開館できたのは21日間でした。

寄贈者の皆様には展示の写真を送付、ご友人含め15名ほどの方々に来ていただきました。そして「丁寧な展示です」とお礼もいただきました。ミニチュアの竿秤は「繭をはかる秤ですよ」と教えてもいただきました。

「ピースあいちメールマガジン」で展示品の詳細が紹介されていますので、来館できなかった方々のために再掲すると、第131号メルマガには60枚ほどの切手の紹介など。第132号では、スタッフお薦め資料として徴兵保険、各種社債、国債、貯金、千人針、日の丸など。第133号には、広告に詳細に印刷された暦。第134号では、少年倶楽部の表紙と内容。また「美術と戦争」と題して陸軍作戦記録画集や聖戦美術について解説。第135号では、雑誌ライフの広告記事などの解説が記載されていますので、ご覧いただけたらと思います。

また、今回展示した「空閑(くが) 少佐自殺を称賛する1932年4月鹿児島朝日新聞の全面記事」が、1941年制定「戦陣訓」の「生きて虜囚の辱(はずかしめ)を受けず」の先取りとされることを知りました。資料の持つ重さと共に、そうした重さを展示前に知る必要性を感じた寄贈品展でした。



**報告**

**企画展「福島を忘れない! 被災地に寄りそって10年**

—設立から30年「NPOチェルノブイリ救援・中部」の活動—

3月2日(火)～4月3日(土)

東日本大震災から10年を迎えた今年は、NPOチェルノブイリ救援・中部のチェルノブイリや福島における活動を中心に紹介し、「原発事故の実態」を知り、「被災地に寄り添う支援」や「平和」について考えました。



## 平和へのメッセージ

2020年度ピースあいち「戦後75年プロジェクト」の一つとして、「語り継ぎ手育成プログラム」に取り組んでいます。ピースあいちの今後にとって重要課題の一つと位置づけ、「語り手の会」「語り継ぎ手の会」を含むオールピースあいちで取り組んでいるものです。嬉しいことに多くの応募があり、昨年10月から月1回の研修会を開催しています(1月は中止)。今回は、プログラムリーダーと語り継ぎボランティアの計5人から「平和へのメッセージ」を発信していただきます。

これから長く、ピースあいちで一緒に活動していく仲間たちです。

### 私にとっての“戦争体験”とは？

“戦争中に何人の中国人が日本軍に殺されたのか知っているか？”“朝鮮人の〇〇野郎、これが最初に覚えた日本語だ”留学先のミシガン州のキャンパスでアジア系の学生らにかけられた言葉だった。1979年夏のこと。

名古屋・八事の丘に捕虜収容所があり、憲兵たちは配給食糧を捕虜に与えず山分けしていた。捕虜だったイタリア人は、憲兵達の食べ残しのごみを掘り起こしては、幼い子どもたち、捕虜仲間らとそれらを舐めるようにして飢えを凌いだ。憲兵だった人物は、“もう覚えていない”“そんなことあるわけないだろう”と否定。イタリア人男性は、“全てを許すが、どうしても忘れることはできない”と、厳しい表情で私

熊本 典生

「語り継ぎ手育成プログラム」リーダー



に訴えた。1990年夏のこと。

“孫が日本人の企業で働くことは我慢ならない”シンガポールにオフィスを作った際、面接に来た若者のおばあさまから、後日に言われた言葉。1992年の夏のこと。

豊川海軍工廠の空襲を生き延びた母親は、3人の息子に多くを語らなかった。2017年没。もっと話に耳を傾けるべきだった。

残された体験記録はどれも貴重。敬意を持って接し、生きた言葉として次の世代に語り継いでいくことが私に課せられた“平和へのメッセージ”のあり方と考えている。

### 医療や支援を通して平和に貢献を

今の日本は平和だから、戦争の怖さを忘れたり目を外らしたりして人生を送ることは簡単です。でも、恐ろしくて目を背けたいことにこそ、正面から向き合わないといけないと思います。

広い地球において全人類の価値観が一致することはないでしょうが、争いで決着を付けたり、意見の異なる人を武力で押さえつけたりするのを止めることはできるはず。世界では内戦が続く国々があり、核の問題なども解決していません。その意味で、私達の戦争は終わっていないと感じます。日本も戦争を過去の記憶にせず、世界の人々と助け合い、話し合い、理解し合うことが必要だと思うのです。

岡田 彩花



私は薬剤師を目指して大学で勉強しています。医療の仕事に就いたら、もっと生きたいのに生きられない方々とも出会うことでしょう。現代の“病気”と当時の“戦争”には死への不安や恐怖など共通点もあると思います。

私は将来、青年海外協力隊などを通していろんな国に行きたいと考えています。私には大きな力もお金も無いけれど、医療や支援を通して世界の平和に少しでも貢献できたら良いなと思っています。戦争を始めたのが人間ならば、戦争を終わらせるのも人間であるはずだと私は信じています。

## 平和な未来への道に繋がるように

澁谷 美子



戦争で起きた残酷で非情な出来事を知るたびに言葉を失います。戦争の真実と事実に向き合い寄り添うことは、生命の尊さを感じていくこと、人を知ること、自分を見つめ直していくこと、日本や世界の国を知ることによって繋がると感じます。そして、過去から学び平和な未来のために現在、自分ができることを考え小さなことからでも行動に繋げていく。その行動からできる足跡は、平和な未来への道に繋がると信じています。

平和を思う時、私の中に厚い壁となり現れるのは「偏見と差別」です。戦争により生まれた悲しみや苦しみ、残されたさまざまな問題が「偏見と差別」によ

り深刻化し、長引かせて声なき声にしてしまうのではないのでしょうか。

また、戦争だけでなく自然災害や感染症蔓延などが起きた時も、苦しみを生んでいます。平和な未来への道を築いていこうとする中で、私はこの厚い壁に対してどうしていけばいいのか…。今の私には、寛容さと冷静な視点を養い続けていく。このことしか言えませんが努力していきます。

私は今、戦争語り継ぎ手ボランティア研修を受けています。平和な未来への道に繋がるように戦争を語り継いでいきたいです。

## 「拒絶」と「<sup>ゆる</sup>赦し」の間で平和を考える

中本 千尋



高校生の授業をきっかけにルワンダに興味を持った。大学生になりルワンダを訪問し、実際の虐殺現場で体験談を聞いた。しかしその時得た一番の感覚は、沖縄に通い続けた作家の大江健三郎の言葉を借りれば、私に対する「拒絶」だった。ルワンダの悲しみに寄り添おうと勝手な涙をする私を拒絶していた。それでも私は調べ続けていた。その中でのルワンダ留学だった。

留学では、ルワンダ人、紛争当事国からの30名程度の留学生と平和を議論した。加えて、シャワーもコンロもない寮で、もみくちゃんになって大家族のように暮らした。留学中にも友人からの拒絶を感じた。一

方で同時に、「赦し」を経験したと感じている。信頼関係が構築さ

れる中で、友人が武力紛争の苦痛を告白する、私に訴えかける場面に遭遇した。この時に、私は友人として共に悲しむことを「赦された」。またこの経験から、経験のない苦しみに対しても寄り添えることを学んだ。相手の苦痛の全てを理解することはできない。ただ、その裏にある同じ人間としての共通の苦しみに気づき、共感することができる。これからも「拒絶」と「赦し」の間で揺れながら、友人から共有された傷をなぞるように平和を考えたい。

## 多様な価値観を認め平和への貢献を目指す

原田 貴之



広島県で生まれ育った私にとって、平和教育は常に身近にあった。毎年8月6日は平和登校日で全校生徒が戦争映画を見た。小学1年生の時に鑑賞した「はだしのゲン」は恐ろしすぎて、しばらくは一人でトイレに行くことも怖かったのを今でも鮮明に覚えている。高校3年生の時、日本史の教諭が言った「卒業後県外にいくもんもおるじゃろうけど、ヒロシマのことを伝えていくんは県民の義務じゃけえの」ということばは、私のその後の人生で、ますます強く胸に響くようになった。

2年間過ごしたオーストラリアでは、原爆を始め戦時中の日本のことは全くと言っていいほど知られてい

ない。また、バックパックで放浪し

たアジア各国の博物館では、日本植民地下の時代がそれぞれ異なる視点で記述されていた。そして、昨年はじめて訪れたアメリカの Smithsonian 博物館、原爆投下は「最後の一撃」…日米の歴史認識の大きな違いを目の当たりにした。

2020年4月、私は「クレイン英学校」を立ち上げた。クレインは平和の象徴である「鶴」。国が変われば価値観も異なる。多様な視点を受け入れた上で、自らの思いを発信できる人材育成を通して、世界平和に少しでも貢献したい。それが私の想いである。





1930年12月21日生。趣味は俳句とボトルシップ作り。著書に『振り向けば名古屋』(中央出版1995年)。

## 斎藤孝さんを偲ぶ

2020年11月26日、ご自宅で療養中だったピースあいちボランティアの斎藤孝さんが亡くなりました。90歳の誕生日目前のことでした。斎藤さんはピースあいちの開館前から運営に携わり、先号の『ピースあいちニュース』まで、前身の『建設ニュース』の時からずっと編集長として腕を振るっていただき、また初代語り手の会代表としてもご活躍いただきました。戦争体験の語りでは、「おヒゲの斎藤さん」と子どもたちから慕われ、感想文が送られてくると嬉しそうに目を通しておられた姿が思い出されます。名古屋市役所で局長など要職に就かれていたにもかかわらず、少しも偉ぶるところがなく、フットワーク軽く、温和でユーモアがあり、ごく自然に私たちを導いてくださいました。ご冥福をお祈りいたします。

赤澤 ゆかり(ピースあいち事務局長)

### ■斎藤孝さん逝く■

斎藤さんは在職中から、文筆家であり、また俳句や短歌をこよなく愛されていた。俳句仲間同士で歌会を持たれていたらしく、句集ができ上がると必ず送っていただいた。こしばらくピースあいちへお見えになることがなかったので、心配している矢先のことであった。

私がリタイアしてピースあいちで活動していると、この運動にも賛同して仲間に入っていた。そのせいか戦争と平和にかかる詩がたくさん生まれた。その中の一つに次の一文がある。

「名古屋は一面の焼け野原だった。その焼け跡を女学生が歩いていた。もんぺ姿ではなくセーラー服だった。スカートの両サイド、縦に一本入った白線が目にしみるほどであった。見上げた空は入道雲が沸き上がる青空だった。爆弾も焼夷弾も落ちてこない空であった」

私の好きな印象的な文章である。心よりご冥福を祈る。

竹川日出男(ピースあいち副館長)

### 報告 進んでいます!

#### ピースあいち「戦後75年プロジェクト」

##### 1. 体験談の募集

応募いただいた27人の戦争体験を収録した『語り継ぐ私の戦争体験 第4集』を3月31日に発行しました。(B5判 82ページ)

##### 2. 映像アーカイブの整備

3か年継続事業として、映像の編集・活用を進めています。

##### 3. 戦争体験の語り継ぎ手ボランティアの募集と研修(P45参照)

予想を超える多くの方にご応募いただきました。コロナ禍のなか参加人数を制限せざるを得なかったのが残念でした。

##### ●第1回(10月18日)開講式

参加者から自己紹介と応募の動機などお話しいただきました。

##### ●第2回(11月15日)「語り手の思いに耳を傾ける1」

語り手を囲んで&グループディスカッション

##### ●第3回(12月20日)「語り手の思いに耳を傾ける2」

語り手を囲んで&グループディスカッション

##### ●第3回(2月21日)西形久司さんの講演&質疑(オンライン)

「語り継ぐこと、継ぎ足すこと—語り継ぎ手は語り手を越えることができるのか?」

##### ●第4回(3月21日)「語り継ぎの先輩から学ぶ」

語り継ぎ手に聞く&意見交換(オンライン)

### 報告 飢餓のない世界を!

#### 国連WFP(国連世界食糧計画)の取り組み

2020年12月8日(火)~2021年2月27日(土)

世界の紛争地や自然災害で飢えに苦しむ人々への食糧支援活動を続けてきたWFPは、2020年ノーベル平和賞を受賞しました。いま世界では約7億人の人々が飢餓で苦しんでいます。さらに新型コロナ禍では、新たに1億人以上の人々が飢餓に陥ると言われています。食べることは生きることの基本です。飢餓の解決は平和への第一歩でもあります。「飢餓のない世界を」と続けてきたWFPの活動を、国連WFPサポーターズなごやのご協力で紹介しました。

食糧がすべての人々に渡るための一つには、食品ロスを減らすこと。一人ひとりが気を付ければ助かる命があること。今すぐできることを心掛けようと思いました。



## コロナウイルス感染拡大への対応 この1年

コロナウイルス感染症が蔓延して1年が過ぎました。ちょうど1年前の3月に、開館以来初めての休館を決めました。休館は2ヶ月間に及び、その後の計画が大きく狂いました。「模擬爆弾パンキン展」は2ヶ月遅れの開催となり、NPOの総会は会員の郵送による票決となりました。夏の企画展「少女たちの戦争」は1年延期しました。寄贈品展は予定通り12月にスタートしたものの、1月、再びの休館により途中で取り止めとなりました。人が集まるイベントが開けず、この1年の来館者数は大きく落ち込みました。

多くの方々に来ていただくことが役目の資料館にとって辛い状況でした。また日々のボランティアさんの参加を控えてもらっています。

1年がたち、まだ以前の状態には戻っていませんが、企画展の準備や語り継ぎ手育成プログラムなど、地道に活動が進められてきました。また、3階の断熱工事や1階の間仕切り工事を行なうことができました。

コロナ終息を見据えて、今できる事をしっかりやってその日を迎えたいものです。みなさまには開館の状況が変わればそのつどお知らせをしていきますので、ピースあいちを心に留めておいていただきますようお願いいたします。

シリーズ

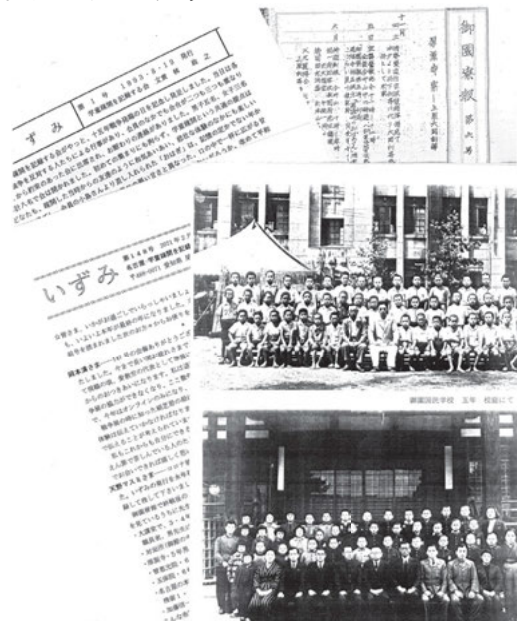
平和を守る仲間たち⑩ 名古屋・学童疎開を記録する会

学童疎開が始まったのは、1944(昭和19)年のことで、最初は3年生以上の児童がその対象となった。「つぎの世をせおふべき身ぞたくましくただしくのびよさとにうつりて」という皇后陛下のうたに象徴されているように、“明日の日本を背負って立つ小国民”として、都会の空襲を避けて農山村へ移動するという建前で実行された。

つまり学童疎開は、年齢的には昭和一ケタから二ケタ生まれにまたがる数年の幅で、しかもそれが主要都市の学童のみ対象とされたのであるから、全人口的な数字上の見地からいえば、必ずしも多くの部分を占めるものではないのかもしれない。

しかし、思えばこれは日本の長い教育史上、いわば未曾有の出来事であり、人間形成の過程のなかでもっとも精神の柔軟な時間に経験させられた、ぬきさしならぬ事実の数々であったことは否めない。

そして、あの不信と絶望と空腹の時間を風化させないために、できる限りそれらを記録しておきたく考え、1992(平成4)年、名古屋・学童疎開を記録す



る会が結成された。

それから19年、着々と隔月発行の会報を中心にさまざまな学童疎開の実態を記録しつつきてきた。そして、2021年2月2月現在で会報は148号に達した。

(名古屋・学童疎開を記録する会代表 木下信三)

ボランティアの窓

女性の活躍が素晴らしい

野田 隆稔

ピースあいちが開館してからボランティアを続けている。最初からのボランティアは半分以下しか残っていない。

その間、ガイド、運営委員、イベントのスタッフ、ニュースの編集、戦跡見学会などに携わってきた。多士済々の人々と出会えたことが一番よかった。

特に素晴らしいと思うのは女性たちの活躍である。森喜朗氏が女性蔑視の発言をして東京五輪組織委員会の会長を辞職したが、ピースあいちに来て女性たちの活動をみれば、あんな恥ずかしい様子を世界にさらさなくても済んだのに。森さんの考えに賛同する人々はここに来て女性の素晴らしさを学んでほしいと思うくらいだ。

あと何年ボランティアが続けられるかわからないが、やる気と体力が続く限りはピースあいちの活動を続けようと思っている。



末永く「ピースあいち」の一助に

近藤 直美

コロナ禍で自粛、自粛と毎日うんざりです。外出を控え家の中で楽しく心豊かに過ごす術はないかと考えました。そして、毎日、縁側でコーヒーを味わい、庭の木々の変化を楽しみ、本を読み新聞をじっくり読み(新聞を畳んだ時には内容をすっかり忘れ)、静かに一日が過ぎせるよう心掛けています。

コロナのお陰で自分の“来し方・生く末”を考え、今までに出逢った方々とおしゃべりしたこと、仲よくしていただいたこと、皆さんの顔を思い出して楽しんでいます。

コロナが落ち着いたらまたピースのみなさんとおしゃべりしたいです。

末永く「ピースあいち」館の一助になるように頑張ります。よろしく。





資料館探訪 28

## 観る人を無言にさせる戦没画学生慰霊美術館「無言館」

その美術館は上田市の塩田平にある。無言館は厳密に言うと、戦争資料館ではない。十五年戦争で志なかに戦没（戦死、戦病死など）した画学生の遺品の絵画を展示している美術館である。戦争の残酷さや悲惨さを描いた絵を展示

している反戦美術館ではない。戦争に関する絵は一枚もない。彼らが生前に描いた絵（自画像・愛する家族像・恋人像・習作作品など）が壁面に、戦陣から家族（父母・妻子）に出されたイラスト入りの手紙類や遺品がケースに展示されている。それらのどれをとっても戦争に反対するものは見られない。普通の暮らしをしている画学生たちのもので



ある。

絵の横に、作者の略歴と遺族のエピソードが記されている。読んでみると胸が痛くなる。

無言館とは画学生達が絵を通して無言で語りかけているから無言館だと思っていたら、見た者が事実の重さに無言になってしまうから無言館なのだということを知った。(N)

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

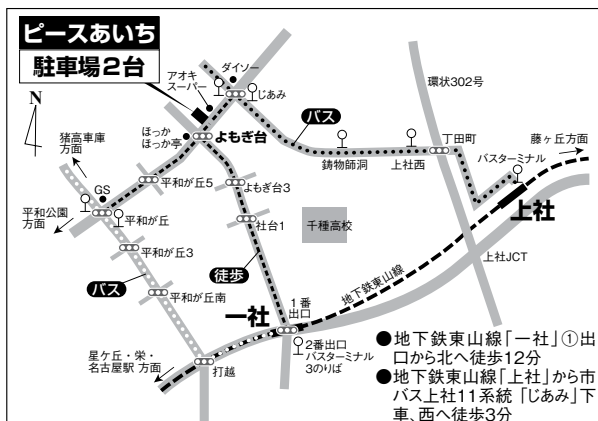
### ぜひ「ピースあいち」の会員に!

5月で開館15年目になり、戦争と平和の資料館として社会的にも、ますます期待されつつあります。そのような中で、昨年はコロナウイルス感染症拡大防止のためピースあいちは延べ4か月近く休館しておりましたが、3月2日から再開され、「名古屋大空襲」の企画展も始まりました。

ピースあいちの基本財源は、入館料（大人300円・子ども100円）と会員の皆さんの年会費（正会員6,000円・賛助会員3,000円）です。来館者数は、開館した2007年は約12,000人、以後は6,000人前後で推移し、昨年は2,000人を下回りました。

現在会員数は826名（正会員363名・賛助会員463名）ですが、ピースあいちの年間経費約1,100万円には大きく足りません。不足分は不確定な寄付金や助成金に頼っているのが現状です。自主財源の確立は、まず会員の拡大です。ぜひ多くの方に会員になっていただきピースあいちを支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

### 交通のご案内



### 【利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日
- 入館料 大人 300円 小中高生 100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験DVDのライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります（300円）。他に障がい者用が1台分あります（無料）。

### ●編集後記●

「ピースあいち」の創設者ともいべき野間美喜子さんが亡くなって1年余。偲ぶ会の案内記事は2面にあります。もう一人の大ベテラン記者、斎藤孝さんを偲ぶ記事は6面にあります。リーダーシップの野間さん、人柄と素養でみなに愛された斎藤さん。お二人がいなくなってみると、何やら、ピースあいちのつかい棒がなくなってしまう気にもなりますが、でも、4面、5面の見開きページの「平和へのメッセージ」をご覧ください。ピースあいちの新たな取組み「語り継ぎ手育成プログラム」に参加した幅広い年齢層の人が、平和への熱い思いを語っています。なかなかの読みです。ピースあいちはまだまだ元気だと分かっていただけだと思います。皆様のご支援を糧にこれからも頑張っていきます。ご意見、提言、お叱りなどをお待ちしています。(S.K)